

イベント情報 (10月~12月)

電話 (04-2934-4396) で博物館までご連絡ください。
また、公式ホームページからも申し込みできます。

今年もやる!! 緑の森フェスタ 2018

日時: 11月10日(土)、11日(日)
両日とも10:00~15:30
※作品展は11/10(土)~16(金)まで
対象: どなたでも

年に1度のお祭り! みどり森で食べて歌って遊んでみましょう。
地域の自然派食品の店、ツリークライミング体験、池のクルーズなどをお楽しみいただけます。演奏会も開催予定です。
また期間中は展示室にて狭山丘陵をテーマにした写真や絵画などの作品展も実施しますので、ぜひご覧ください。
※一部有料のイベントもあります。

★詳しくは、後日発行のチラシ、HPでご案内しますので、ご確認ください。

◆みどり森ガイドウォーク

当日募集型のガイドウォークです。
案内所から大谷戸湿地周辺のみどころを1時間程度でご案内します。
どんなテーマになるかは当日のお楽しみ!

日時: 10/6(土) 13:00~
11/14(水) 13:00~ ※埼玉県民の日
12/8(土) 13:00~
12/24(日) 11:00~
1/6(日) 11:00~
対象: どなたでも
定員: 15名
参加費: 無料
要申込: 当日10時から案内所にて受付

◆みどり森 大人のスローキャンプ

里山の自然の中で行う大人向けのキャンプです。キャンプは初めてという方も歓迎。みどり森の秋をのんびり楽しみましょう。
テント・シュラフ貸出、夕食・朝食付き。

日時: 10月27日(土) 10:00~翌日15:00
対象: 大人(20~40代の方)
定員: 20名
参加費: 10,000円(学生9,000円)
3名以上のグループでお申込みの方は、1名あたり8500円!

要申込: 受付中【10月13日(土)締切】

◆里山ようちえん「オタマ組・カエル組」

子どもの成長段階や好奇心に合わせてながら、親子で里山の自然の中で遊びます。
お弁当持参。お茶とお菓子付き。
※参加対象年齢がありますのでご注意ください。

【カエル組】

日時: 12月9日(日) 10:00~13:30
対象: H30年4/1時点で満4・5歳児と保護者
定員: 20名(応募多数の場合は抽選)
参加費: 親子2名で1000円1名追加ごと500円
要申込: 11/9~11/22までに申込み

【オタマ組】

日時: 12月12日(水) 10:00~13:30
対象: H30年4/1時点で満2・3歳児と保護者
定員: 20名(応募多数の場合は抽選)
参加費: 親子2名で1000円1名追加ごと500円
要申込: 11/12~11/27までに申込み

◆里山交流会「紅葉ハイクトランプシェードづくり」

秋の里山をのんびり散策した後、お茶菓子を食べながらこれからの季節にピッタリな、森の素材を使ったランプシェードを作ります。

日時: 11月23日(金・祝) 10:00~14:00
対象: 20代~40代まで
定員: 20名
参加費: 2000円(材料費・保険代・お茶菓子代)
要申込: 10月23日から受付開始します。

◆里山体験教室「落ち葉かきと焼き芋作り」

里山の管理作業である、落ち葉かきをします。山盛りの落ち葉をかき集めた後は、ごほうびの焼き芋作り!

日時: 12月16日(日) 10:00~12:30
対象: 小学生以上(小学生は保護者と参加)
定員: 20名
参加費: 300円(材料費・保険代)
要申込: 11月16日から受付開始します。

◆里山文化講座「お正月のしめ縄飾り作り」

地域の里山の文化や習俗を体験する講座です。お正月のしめ縄飾りを作ります!

日時: 12月23日(日・祝) 10:00~12:30
対象: 小学生以上(小学生は保護者と参加)
定員: 20名
参加費: 500円
要申込: 11月23日から受付開始します。

さいたま緑の森博物館ニュースレターは、みどり森の様々な情報を年4回お届けいたします。

さいたま緑の森博物館
ニュースレター

はくぶつかんだより No. 31

Saitama Midori-no-mori Nature Park

バードウォッチングはじめてみよう

これから林の木々が葉を落とし、野鳥の姿を見つけやすい季節がやってきます。夏は野鳥の姿を探すのが大変で、バードウォッチングを始めようとしても二の足を踏んでいた方には、秋から冬がおススメの時期です。

今号のニュースレター特集は、これからの季節に観察できる、混群(こんぐん)についてです。シジュウカラやエナガ、メジロなどの留鳥たちが群れで飛んでいる姿を見かけることが多くなりますので、中面を確認して、じっくりと観察を楽しんでみてください。

また当館では、双眼鏡の貸し出しが始まります。株式会社ガードフォースジャパンさんのご協力により、バンガードの双眼鏡の無料貸し出しをいたします。是非ともご利用いただき、これからバードウォッチングを楽しんでみてはいかがでしょうか?

希望される方には、貸し出し時に双眼鏡の基本的な使い方について、簡単なレクチャーもいたしますので初心者の方も大歓迎です!

なお、貸し出しの際には、簡単な手続きと身分証明をできるものが必要になります。双眼鏡の台数には限りがありますので、詳細は案内所スタッフまでお気軽にお問合せ下さい。



「混群でよく見られるエナガ」

フィールドミュージアム みどり森 ~②みどり森の3つのエリア~

さいたま緑の森博物館(通称みどり森)は、里山環境そのものを展示とした『フィールドミュージアム』であることが一番の特徴です。このコーナーでは、みどり森についてや園内の見どころをご紹介します。

【3つのエリア分け】

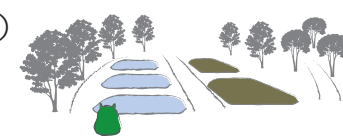
みどり森は埼玉県の入間市と所沢市にまたがり面積は85haあります。入間市域は平成7年7月に所沢市域は平成25年4月に開園しました。入間市域は植生遷移展示ゾーンと雑木林展示ゾーンの2つのエリアに分けられ、所沢市域はふるさと景観展示ゾーンとされています。

ふるさと景観展示ゾーン (ふるさとふれあいゾーン)

自然と触れ合いながら、ふるさとの景観を学ぶエリア

【見どころ】

八幡湿地周辺は多くのボランティア団体により日々管理されており、昔ながらの里山の景観がまともに残されている。八幡湿地や砂川の源流がある。



植生遷移展示ゾーン (ワイルドライフゾーン)

できる限り人の手を加えずに、自然のままに林や湿地を保全するエリア



【見どころ】

人の手が入らないので、暖温帯の特徴の常緑広葉樹が育ち、雑木林に比べると薄暗い森になっている。稜川やお伊勢台跡がある。



雑木林展示ゾーン (武蔵野観察ゾーン)

人が適度に手を加えながら、昔の雑木林の景観を保つエリア

2つある湿地では水辺の生き物を観察できるほか湿地を利用した稲作体験のイベントも行っている。水辺環境として大谷戸湿地や西久保湿地、林の環境として雑木林広場、疎林広場がある。

【見どころ】

更新伐採を行い、昔の雑木林の景観を再現している。成長度合いの違う雑木林を見ることができる。2つある湿地では水辺の生き物を観察できるほか湿地を利用した稲作体験のイベントも行っている。水辺環境として大谷戸湿地や西久保湿地、林の環境として雑木林広場、疎林広場がある。

博物館からのお知らせ

~散策時の注意事項~

12月ごろ、霜が降りるようになると、日中は霜がとけて、園路がぬかるむようになります。散策をする際は、足元に十分気を付けて、お楽しみください。

博物館の利用案内

◆緑の森博物館の利用ルール◆

緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- 1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生きものをむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
- 2) 他から持ち込んだ動植物(外来種)を放さないでください。
- 3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
- 4) 犬などのペットを放さないでください。(フンの後始末もしっかりと行いましょう)
- 5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
- 6) バーベキューや花火など火を使わないでください。
- 7) ゴミは持ち帰りましょう。

◆アクセス◆

■公共交通機関をご利用の場合■

小手指駅南口より西武バス
「宮寺西」または「金子駅入口」行き乗車、約25分
「荻原バス停」下車、徒歩約10分

■案内所までの地図■

右のQRコードを読み込むと緑の森博物館のHPのアクセスページが開きます。(一部、携帯電話では確認できない機種があります)



■ご来館時のお願い■

駐車スペースに限りがありますので電車・バスをご利用ください。

発行年月 2018年10月
発行 さいたま緑の森博物館
住所 〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1
TEL/FAX 04-2934-4396

開館時間 9:00~17:00 【入館無料】
休館日 月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく)
公式HP <http://saitama-midorinomori.jp/>
指定管理者 株式会社自然教育研究センター

いま、混群がオモシロイ!!

秋も深まったある日、雑木林へ行くと・・・



ちがう種類のもの同士が入り混じって作った群れを混群というよ。日本では、秋から冬に、シジュウカラ科の鳥たちやエナガ(エナガ科)などが、いっしょに行動するのがよく知られているんだ。

見分けてみよう!
メンバーはだれ?

混群ずかん

狭山丘陵でよく見られる混群の構成メンバーを紹介しよう!

エナガ(エナガ科) ★

小さく軽い体をいかしてほそい枝先での虫さがしが得意。虫の卵やクモなどを食べている。エナガ同士の群れの結束は強く、混群の流れを率先していく中核メンバーになりやすい。

ヤマガラ(シジュウカラ科) ■

シジュウカラ科の中では、くちばしの破壊力はナンバーワン。エゴノキの実などを足指でおさえ、くちばしでたたき割って食べる。実の中の虫も目当てのようだ。食べ物をたくわえる習性がある。通年つがい度過すことが多く、混群にも1~2羽と少数派。

シジュウカラ(シジュウカラ科)

秋に10羽ほどの群れを作る。混群メンバーのなかでは、もっとも地上に降りることが多い。木の上から下まで、あちこちで食べ物を探す。他の鳥への関心も強く、食べ物を横取りすることも。

それぞれ 林の中で食べ物を探す場所がちょっとずつちがうよ。だから群れていてもケンカにならないんだ!

★ 木の高いところ
ほそい枝

■ 木の中ほど

▲ 幹や太い枝

● 地面

メジロ(メジロ科) ★

ほそ長いくちばしを花に入れ、ブラシ状になった舌先で花の蜜をなめる。蜜の他にヒサカキの実やアブラムシなども食べる。秋と春には群れが大きくなり、混群の中核メンバーになることも。

コゲラ(キツツキ科) ▲

スズメサイズの小さいキツツキ。木の幹や太い枝を中心に食べ物を探す。通年つがい度過すので、混群にも2羽で見かけることが多い。

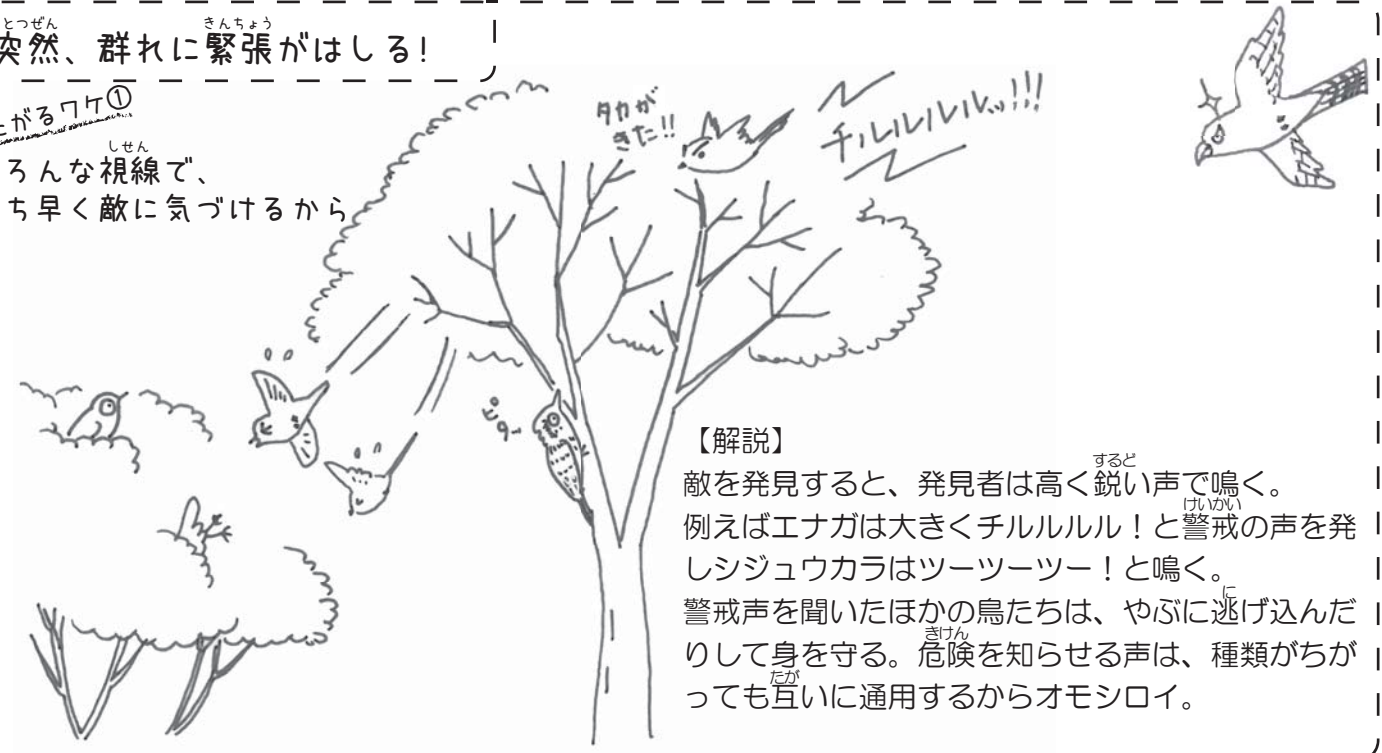
これ以外にも、8~9月には、渡り途中のセンダイムシクイやサンコウチョウが参加することもあるという。冬にはアカゲラやキクイタダキが参加しているかも…。

~ ちょっとだけちがうもの同士で群れたがる?? そのワケは・・・ ~

混群の様子をよく見ていると、群れたがる理由が見えてくる!?

突然、群れに緊張がはしる!

群れたがるワケ①
いろんな視線で、いち早く敵に気づけるから



【解説】

敵を発見すると、発見者は高く鋭い声で鳴く。例えばエナガは大きくチルルルル!と警戒の声を発しシジュウカラはツーツーツー!と鳴く。警戒声を聞いたほかの鳥たちは、やぶに逃げ込んだりして身を守る。危険を知らせる声は、種類がちがっても互いに通用するからオモシロイ。

他の鳥のことが気になる!?

群れたがるワケ②
目の付けどころのちがいで、食べ物の発見率が上がるから



【解説】

お互いの行動を見ては、探す場所をまねしたり、時には横取りのチャンスもあったりする。



★混群でいたほうがお得★

混群といっても、それぞれ自分の種類の群れが基本なんだ。だから他の種類とは途中で離れたりまた合流したりして、いつも同じメンバー(構成種)で行動しているわけではないんだよ。それでも混群になるのは、食べ物が見つけにくい時や、移動中に敵におそわれる危険がある時には、混群でいたほうがお互いに得ることがあるからなんだね。鳥を見る面白さは、種類を見分けるだけではなく、こんなふうにそれぞれの鳥がどんな行動をしているか、互いにどんな関係なのかに注目することにもあると思いますので、ぜひみどり森で混群を観察してみてくださいね。



【参考図書】

見る聞くわかる野鳥界 識別編、見る聞くわかる野鳥界 生態編(いずれも石塚徹著、信濃毎日新聞社)、森と鳥と(中村登流著、信濃毎日新聞社)、エナガの群れ社会(中村登流著、信濃毎日新聞社)、目立ちたがり屋の鳥たち(江口和洋著、東海大出版部)